

書名 項目	<h1>新編 新しい科学</h1>	2 東 書
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○計算問題を苦手にする生徒は、練習問題を繰り返し行うことができる。基礎操作やレポートの説明記述が丁寧であり、教科書に記載された知識の分量が丁度よい。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○思考ツールの活用に優れている（一年生の54ページ等）仮説や考察の仕方が工夫されている。各学年の教科書、ページ下段に示された思考のステップが示され、生徒にとっても学習段階がわかりやすい。学習のまとめりごとに、学習した内容を疑問に対する答えとして表現させる活動が設定されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「学びを生活や社会に広げよう」などのコラムがあり、主体的に学ぶことができるつくりになっている。表紙が3年間を見越したつくりになっている。「レッツスタート」が、生徒にとって課題を発見しやすくなるよう配慮されている。</p> <p>＜科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫＞</p> <p>○教科書の使い方の掲載を始めとし、探求の過程がアイコンと脚注のフローチャートで示されるなど、教科書の構成が、探究の過程そのものとなっている。</p> <p>＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞</p> <p>○漫画と読み物が充実し、日常生活や社会との関わりがわかりやすく紹介され、科学的な視点から実生活に結びつけられるよう工夫されている。また、技術、数学など「○の○教科で学ぶこと」のマークがあり他教科との関連が明記されている。（例中1教科書P75等）</p>	
資 料	<p>○章末問題やインタビュー記事、シュミレーション、他教科との関連など活用しやすい工夫がされている。</p> <p>○読み物や資料を掲載することで、科学が身近に感じやすくなる工夫がされている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などはUDフォントで統一され、重要語句や公式はボルド（太文字ゴシック）体で使用されている。</p> <p>○実験や観察の注意事項（赤字）は目立つよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○単元配列は、学習時期や成長段階を踏まえたものになっており、生徒が探究の過程に沿って学習できるつくりになっている。</p>	

書名 項目	<h1>理科の世界</h1>	4 大日本
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○単元導入前に、学習の流れが学べるような記載がある。また、章や単元末で重要語句や基本事項が明確化されている。観察・実験・器具操作等が巻末資料に「基本操作」としてまとめられ確認することができる。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○観察・実験では、「結果の整理」や「結果から考えよう」で結果をまとめる視点が記載されている。また、生物の分類などは表や図を使って見やすく表記されており、各単元末に読解力問題を設定するなど、思考力や表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○日常生活や既習事項を活かす内容が単元末に掲載されていることで、より深い主体的な学びに繋げ、生徒自身の興味を喚起させられるつくりになっている。資料「Science press」においてSDGsについて生徒自ら考えさせる事ができる。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫> ○レポートやノートの書き方が詳しく説明されている。また、探求的な展開を基本とした構成になっている。「問題をみつける」から「振り返ろう」まで段階的に探究する配置になっているため、生徒が見通しをもって学習できる。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○「くらしの中の理科」において、身のまわりの現象や事象と関連付けることで、実生活と結びつけやすいつくりになっている。「つながる」において、各教科との関連が示されている。特に数学と理科の結びつきが細かく記載されている。</p>	
資 料	○シンプルで見やすいつくりで構成し、生徒の学びを視覚情報として支援している。 ○学年や中学校を通して、学習する気体の一覧や物質の融点、沸点などの表が見やすく配慮されている。化学反応式の一覧がわかりやすい。	
表記・表現	○UD フォントを用い、重要語句や公式など太文字が使用されている。公式は特別に配色された枠で囲まれ、単位をつけて表記されている。 ○実験の注意事項が、下地の色を変えて示されている。	
総 括	○学習の進め方や教科書の使い方を示すことで、生徒は一連の流れが把握しやすく、学びの段階が理解しやすい。 ○科学用語について細かく記載されており、知識量が多い。 ○文章表記の量は多めである。「読解力問題」で読む力の育成が可能である。	

書名 項目	中学校 科学	1 1 学 図
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○教科書内における「課題」「まとめ」が毎時間ごとに設定されていて、授業者にとっての示度が明確になるよう工夫されている。また単元末に「学習のまとめ」を設け、振り返りがしやすい。授業補充資料を巻末につけることで、最低限の知識量に留め、教科書がスリム化されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○巻頭の漫画、「理路整然」において、レポートの書き方、発表の仕方など丁寧に説明されている。観察・実験では、考察しやすいように、結果から導き出す具体例が示され、表現力を育成する場面が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○巻頭で探求の流れが示されている。学習の進め方や使い方が説明されているとともに、章初め「CAN Do LIST」や「振り返り」など系統性をもった導入がされている。コラムでは、持続可能な社会実現にむけて意識できるよう工夫されている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫> ○各学年で、実験の多い化学分野が重ならないよう、単元配列され、授業者に配慮されている。 「課題の発見（気づき）」から「振り返り」までが探求的な展開で構成され、インデックスを利用することで、探求の過程のどこを学習しているのかがわかりやすい。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○「資料」において、日常生活や社会との関わりが紹介されている。また、章の表紙には、SDGs と結びつけた見出しがある。全体的に SDGs との関連が、わかりやすくなるように配慮されている。</p>	
資 料	○教科書表記では、写真や挿絵、グラフが大きくて見やすい。	
表記・表現	○UDフォントで統一されている。専門用語はゴシック体に加え、振り仮名なが振られ識字しやすいよう工夫されている。 ○実験の注意事項において、文字配色が工夫され視覚効果をあげている。	
総 括	○理科を学ぶ意義や教科書の使い方が明記され、系統性と段階性をもって構成されている。 ○「理路整然」においてレポートの書き方、発表の仕方など丁寧に文章化されて説明されている。	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">自然の探究 中学理科</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○巻頭の「探求の進め方」において、学習の流れや順序が示されている。各節に「課題」「仮説」「計画」「結論」などが掲載され、随時流れが確認できる。物質・試薬の一覧が、巻末に記載され、観察・実験においては「基礎技能」が掲載されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○章の導入に「学習前の私」、章末のまとめに「学習後の私」を設け、自分の言葉で説明させることで、自身の振り返りや変容を確かめさせる工夫がある。思考力や表現力を育成するために、「考えよう」「話し合おう」「発表しよう」が設定されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「ハローサイエンス」や「科学者列伝」など、興味を喚起させ発展的で深い学びへつなげる工夫がある。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫> ○巻頭折り込みページで探求の流れをいつでも確認できるほか、各学年すべてにおいて巻末資料に、自由研究、基礎技能、物質試薬が統一して掲載されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫> ○ハローサイエンスにおいて実生活や社会、他教科、SDGsとも関連付けられるよう配慮されている。「理科で使う算数・数学」では、小数点の計算や比例のグラフなど理科において使用頻度の高い内容が掲載されている。</p>	
資 料	○実験や観察においては、教科書に直接書き込むことが可能である。また事前に複製することで、振り返りや既習確認、自学にも活用できる。	
表記・表現	○本文はUDフォントで統一されている。発達段階に応じて行間を広くし（1年生）、専門用語は、朱書きで振り仮名が振られ、識字への配慮がされている。 ○実験の注意事項がマークで示され、文字色を変えて示されている。	
総 括	○巻頭で自然の探求をテーマとし、探求の過程が示されている。 ○「まなびのリンク」では、習熟や定着に応じた学習ができるようになっている。 ○「学年末総合問題」において、1年間の学習が復習できるように工夫されている。	

書名 項目	<h1>未来へひろがるサイエンス</h1>	6 1 啓林館
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞ ○化学分野の単元前に、実験基礎操作がサイエンス資料として作られている。また、観察実験では、手順がステップに分けられ、図や写真を用いて説明されている。単元終了時において「Review—振りかえろう」や「学習まとめ」「力だめし」が掲載されている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○巻末の「探Qシート」で仮説から実験計画を、探求の過程に沿って進めることができる。「Action アクション-活用してみよう」では、自分の言葉で説明させることで表現力や思考力を育成できるよう工夫されている。マトリックス、ベン図、コンセプトマップなどの思考ツールの活用例が示されている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○巻頭で教科書の使い方について、事例とともに紹介されている。単元の表紙に学ぶ前の「トライ」、学んだ後の「リトライ」とし、「ふり返り」が掲載され、学習前後の変容が確認できるようになっている。</p> <p>＜科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫＞ ○各単元において探Q実験、探Q実習が設定され、「探Qシート」を活用した主体的な学習ができるようになっている。</p> <p>＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞ ○科学コラム「～ラボ」において、家庭科や発展的な内容も踏まえ、日常生活の中での科学が紹介されている。巻末のサイエンス資料では、「理科でよく使う算数・数学」とともに、教科横断的に活用できることが掲載されている。</p>	
資 料	○巻末には「学年末総合問題」「サイエンス資料」がまとめられている。	
表記・表現	<p>○UDフォントで統一されている。専門用語においては、ゴシック体に加え振り仮名が振られ、識字しやすいよう工夫されている。</p> <p>○実験の注意事項が、安全マークとともに配色を変えた文字で示されている。</p>	
総 括	<p>○単元全体の振り返りシートが1枚のポートフォリオとして保管できる。</p> <p>○探求の過程や教科書の使い方が掲載されている。</p> <p>○写真に対してSDGsマークがつけられ、裏見返しで日本各地の取組が紹介されている。</p>	